

# つくば・市民ネットワーク通信 第12号

発行：つくば・市民ネットワーク 発行責任者：阿部登代子 つくば市千現 1-18-5-101 Tel&Fax:029-859-0264

E-mail : tsukubahotnet@ybb.ne.jp ホームページ : <http://www.geocities.jp/tsukubahotnet/>

## エコバッグは **地球を救う** はじめての一步

猛暑続きだった今年の夏。各地での雨の降り方も異常でした。地球温暖化だけではなく、あふれるゴミや有害物質…このままだと次の世代に健康な地球を引き継いでいけないのではと、不安になったのではないのでしょうか。

つくば・市民ネットワークでは生活者の視点で、身近な環境問題であるゴミ問題に取り組んできました。事業所ゴミの分別徹底を市に要望、最終処分場の視察、他市のゴミ施策調査、資源ゴミ分別の学習会実施など。その結果、事業所ゴミの資源化がすすみ、市もゴミ減量の広報に力を入れるようになりました。しかし、魔法のような解決策ではなく、ひとりひとりが自分の問題として「何ができるか」を考え、実行することから始まります。



### つくばエコライフフレンズ立ち上がる

「身近なところから環境を守る暮らし方を提案し、環境意識を高め、実践する人を増やしていけたら」そんな話が進んで、つくば・市民ネットワークはつくば市でこれまで活動してきた市民グループや学生とともに「つくばエコライフフレンズ」を立ち上げました。市民グループが手をつなぐことで、

つくばの市民環境運動に新しいエネルギーと横のつながりを生み出していきたいと思っています。第1回テーマは「レジ袋削減とエコバッグ」です。ゴミを少しでも減らそうと国でもレジ袋の有料化が検討されていましたが、結局、見送られています。レジ袋を減らすだけで環境問題が解決するわけではありませんが、身近で手軽にできるエコバッグ（マイバッグ）運動を通して、環境にやさしいライフスタイルが当たり前の社会にしたいと思います。

### エコバッグ(マイバッグ)を持とう!

エコライフフレンズでは「エコバッグははじめての一步」を合い言葉に、スーパー店頭でPRを兼ねたアンケート調査を実施したり、スーパーや行政にも参加を呼びかけ、エコバッグフォーラムを開催します。「レジ袋を断って、エコバッグをもつ」こんな小さな生活の変化をきっかけに、大量生産・大量消費・大量廃棄社会の見直しにつなげたいと考えます。

市民が変われば社会も変わる。さあ、今日からみんなでもエコバッグ!

### エコバッグフォーラム in つくば

## レジ袋 - なにが問題なの?

11月17日(土) 午後1時~4時  
つくばインフォメーションセンター

講師：舟木賢徳氏  
報告：つくば市のゴミ事情  
市民・学生・スーパーの環境活動  
入場：無料

主催：つくばエコライフフレンズ

### ※「つくばエコライフフレンズ」

身近な環境問題をテーマに、いろいろな市民グループや学生が集まり、各々のネットワークを生かし、多くの市民にエコライフを広げていこうというグループです。

## つくばスタイルに4千万円

去る7月末「20周年記念市民提案型つくばスタイル事業」の補助金(38事業に対して総額約4千万円)の交付が決定しました。これは「つくばの魅力づくり」に役立つあらゆる分野の事業に対し市が支援するもので、応募総数70件と市民の関心は非常に高



つくば市議会議員  
環境経済常任委員会所属  
ながい えつこ  
永井悦子

### 一般質問項目

1. 温暖化防止の政策
2. 有機農業推進の施策
3. つくばスタイル枠募集について

いものでした。しかし事業目的、選定過程、結果及び選定理由の公表、今後の市民提案事業の評価と継続など、予算化した3月議会では全く明らかになっていないうえ、選定が終了した今議会においても明確な回答はありませんでした。

### 結果の公表、不十分

つくば市ではこれまでもいろいろな補助金事業の公募を行ってきました。昨年は25件に対して約1300万円を交付しています。



これらの補助金交付については、それまでの運営団体に交付されていた不明瞭な補助金や、不透明な交付のあり方など様々な問題の抜本的見直しを行った後、平成14年から第三者機関である「補助金制度懇話会」が評価選定し、市長が決定するしくみになっています。そして選定結果・理由について懇話会の提言と市の意見を公表しています。

ところが、同じ市民団体の事業への補助金でありながら、今回の市民提案型事業への支援は選定結果(市民団体名、事業名、補助金額)の公表だけで、**選定理由の詳細は公表されていません**。市長の言葉を借りるなら「より汗をかく」事業が選ばれたのか…、

選ばれた事業、選ばれなかった事業…どのように評価されたのか現状では全く知りません。全てについて詳細をまず公表すべきです。

また、事業終了後の評価はどうするのか。答弁では事業の担当課が個別に評価するとのことですが、税金を投入した20周年記念の事業を単なるばらまきにしないためには、その**選定過程から、実施、評価までをガラスばりにし、広く市民へ知らせる必要**があります。そして全ての過程を私たちが共有することで、**今後の市民協働のあり方を考える糸口**になるのではないのでしょうか。

### これからどうする?補助金のあり方

現在、市の財政状況が大変厳しいという理由で、補助金交付は年々厳しく見直され、削減されています。今回の多額な補助金交付と、大幅な削減によって市民団体の活動が制約されつつある現状との整理を行政はしっかり行い**今後の補助金交付のあり方を市民に充分説明しなければならない**と考えます。

### 広域合併調査特別委員会

### え一つ!?また合併?

明治21年の市町村制度施行後、昭和、平成の大合併を経て、全国15,820あった市町村は平成20年には1,795まで減少します。つくば市は荃崎町(平成14年)を最後に6か町村の合併をしました。国・県は今後も自立した自治体作りを目指し、合併を推進し、近隣自治体も議論を行っています。

このような状況の中、つくば市議会でも広域合併調査特別委員会を設置しました。9月に開催された第2回委員会で、委員から「市民に対するサービス向上の視点で、合併の是非を検討する」、「合併協定の扱いについても検証する」などの意見が出され、活動方針が確認されました。

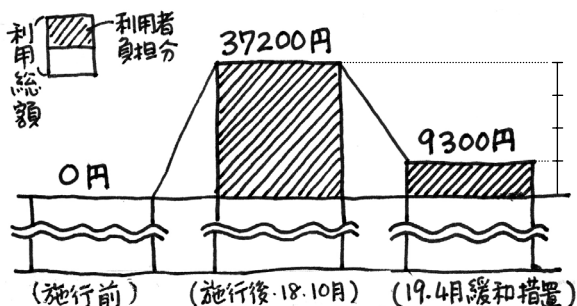
**合併は生活を大きく変える重要な問題だけに、市民不在の議論にならないよう、みんな考えていきたい**と思います。



## 支えあい、助けあうしくみを

自立支援法が本格的に施行されたのは昨年の10月。その後の当事者にかかる負担の重さがとりあげられ、今年度から、国は緩和措置として主に自己負担の軽減措置を行ないました。たとえば、一般（市町村民税所得割額16万円未満の世帯の人）の場合を図にすると以下ようになります。

### 利用者負担限度額のうつつりかわり



しかし、図のように一旦発生した負担額が1/4に軽減されたとはいえ重い負担感は否めません。しかも、この緩和措置は平成20年度までという期限付きのもので、その後の自己負担額がどうなるのか、大変気になります。

### 国の緩和措置は一時的な回避？

また、問題点は負担金だけではありません。新たな自己負担のため、施設利用を控える利用者が出てきており、その上、介護単価がさがったことから経営困難に陥るなど事業者の負担もかなりなものになってきています。

このように、自立支援法にはたくさんの問題点、格差を生む原因が潜んでおり、根本的な解決をしなければならない法律と私は考えています。**法改正に向けての国への働きかけや、自治体独自の解決策を打ち出すなど、できるかぎりの手を打って障がい者の自立を助けるしくみを整えていかなければなりません。**

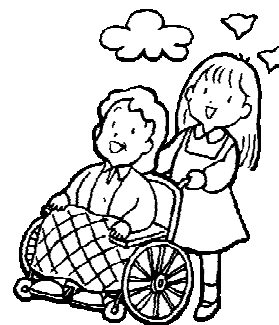
つくば市議会議員  
文教福祉常任委員会所属  
せと ゆみこ  
瀬戸 裕美子



### 一般質問項目

1. 自立支援法施行後の実態調査と独自支援について
2. 景観計画について
3. 再開発について

高齢になっても、障がいがあっても、住み続けられるつくば市であるために、今できることを共にやっという思いを、たくさんの人と共有したいと思います。



## “景観”がまちづくりの新たな道具に

いよいよ景観条例と景観計画が、10月から効力を発揮することになりました。今、市内ではTXの沿線開発を始め、つくば駅前の再整備や、公務員宿舍の廃止に伴う二次開発など、まちの再整備が急ピッチで進められています。30年前の学園都市を知る者としては、**再整備計画が市民の話題に上り、十分理解を得た上で工事が始まるというように段階的に進めてほしいと思います。**そうでないと、市民はいつまでたっても後から不満を言うだけになり、まちを維持していく意欲をそがれるのではないのでしょうか。

つくば市の市民として、あなたが望むつくばのまちの姿やまちの景観について、意見はありませんか？ **良好な景観というのは、押し付けられるものではなく、そこに住む人の感性によるものだと思います。**手始めに、お宅の周りを写真にとって見てみましょう。そして感じたことをぜひお知らせください。そういう声を活かせる場を作りたい、市民ネットワークはそう考えています。



## まちの声から

市民ネットでは、市民の皆さんから様々なご意見を集めています。その一部を紹介します。

「東大通、西大通の歩道に街灯が少なく、夜間の自転車や歩行時に暗くて危険。」

「公務員宿舎が売却され、取り壊される予定だが、緑を残し、低層の住宅地になってほしい。今の開発はマンションが多く計画性がない。コンセプトのあるまちづくりを。」



「学校の風車はこれからどうするの？」

「資源ごみの回収日に出した古紙を市が回収する前に業者が持ち去ってしまうが、どうにかならないか。」



「学校の図書室が雨漏りしているので、修理してほしい。」

「上下水道の料金は適正なのか？水道料金の値上げはほしくないでほしい。」

これら暮らしの様々な問題に取り組んでいます。

### つくば・市民ネットワークの主な活動報告

- 7/11 議員定数等調査特別委員会 (8/21、9/19)
- 13 文教福祉委員会視察 (市内小学校3校)
- 14 大豆畑トラスト種まき
- 16 ごみ減量とリサイクルを考える市民集会
- 18 ハッ場ダム住民訴訟裁判傍聴
- 21 市民協働ガイドライン市民ワークショップ参加  
(~9/15まで計5回)
- 22 景観計画市民学習会(市民協働の会と共催)
- 8/1・30 一般廃棄物減量等推進審議会傍聴
- 8/31~9/21 9月定例議会
- 9/10 小型風車損害賠償訴訟裁判傍聴
- 9/19 広域合併調査特別委員会
- 9/27~28 観光特別委員会視察研修 (小布施・安中)
- 10/2~3 TX沿線開発特別委員会視察研修(長岡・埼玉)



## 市議会議員と話そう!会

10月27日(土)14~16時 宝陽台公民館  
(15時~ ゴミの分別Q&A)

10月29日(月)13~15時 春日公民館

市会議員の永井悦子・瀬戸裕美子を交え、議会の報告、身近な問題について話し合います。

## 市民協働ガイドライン② 市民案まとまる!

これまで行政と市民が一緒になって取り組んだ市の事業には「市内一斉清掃」から「まつりつくば」まで規模も内容も様々です。しかし現状では、事業を進める上での共通した取り決めが市役所の中に無く、窓口対応のばらつきや担当課をめぐってたらい回しになってしまい、市民の提案が頓挫するなど幾つかの問題がおきています。

そこで、市は、行政と市民が協働して事業を行う時の共通した考え方や手続きを「市民協働ガイドライン」として現在作成中です。

作成に当たり市民ネットは「このガイドラインこそ、最初から市民と行政が一緒に協働して作成しましょう!」と行政に強く働きかけました。その結果、市民と行政と一緒に…という形ではありませんでしたが、市の委託を受けたNPOにより5回の市民ワークショップが開催され「市民案」がまとめられました。

このワークショップには、NPO法人だけでなく自治会・地域サークルといった様々なジャンルの市民活動団体が参加し、それぞれの経験や疑問・問題を話し合いました。その中で「協働事業を始める時の総合的な相談窓口がほしい」「市民も行政も共通した考えで取り組むのがスムーズに事業を進めるポイント」「分担した事業内容は行政も市民もきちんと責任を持つ」「公的な資金(税金)の使われ方が適切だったかなど評価する体制も必要」と多岐に渡る意見・アイデアがでました。

今回まとめられた「市民案」は、今後市が設置する「市民協働ガイドライン策定懇談会(仮称)」へ資料として提示されます。市民にとっても使いやすいガイドラインづくりに市民案が活かされるようつくば・市民ネットワークは働きかけていきます。

## つくば・市民ネットワーク 会員募集中

一緒にまちづくりを考えてみませんか。  
興味のある方、お気軽にご連絡ください。

Tel&Fax 029-859-0264

\*\*編集後記\*\*

秋だというのに、暑い、寒いを繰り返す異常気象。一方、議会運営はひたすら、なしくずしの一途。いずれも改善の鍵は、市民が握っている!